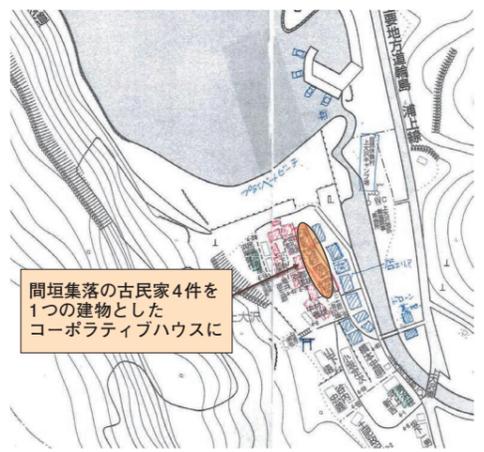




能登オーベルジュ会議
私と辰巳千代子さん(フリーゲル級建築士事務所)の2人で立ち上げた会。被災して大変になっているが、能登のおいしい食材も楽しめる拠点を集落につくってこうという考えが基になっている。その第一段として間垣集落を候補地に選んだ。



重要文化的景観【石川県輪島市大沢・上大沢の間垣集落景観】



急峻な山が日本海に直接迫る能登半島輪島市大沢町・上大沢町では、海からの強い季節風から家々を守るため竹を組んで作られた「間垣」と呼ばれる垣根で集落を囲み、今日まで生活をしてきました。間垣は、二ガタケという細い竹を縦に差して組まれており、夏は適度な日陰をつくり、冬は冷たい強風を防ぐとても機能的なものです。山と海に囲まれた狭い平地に存在し、背後の山々に点在する棚田での農業と前面に広がる豊かな海での漁業により人々が暮らす、半農半漁の生活の中で間垣を用いた街並みは能登の里山里海の生活・生業を知る上で欠くことができない文化的景観です。(輪島市ホームページより)

とから保全の必要性が高い地区です。間垣・景観の維持管理には人が必要ですが、現状はボランティアも行きにくい場所です。高齢者集落であるため、関連する人口を増やしたい地域です。里山・里海のモデル的な地区で美しい景観・魅力ある食材など、地域としての魅力があります。2024年の大規模な水害によって、間垣集落への道が寸断されたため、現在は車での通行が困難となり、孤立した状態になっています。道路復旧後は能登空港から1時間以内でアクセスでき、観光資源としてのポテンシャルが高い地域です。自立した生活が可能な故郷へ
①自立できるモデル集落として以下を採用したいと考えています。

- ② 間垣内住宅4棟をまとめコーポラティブハウスとし、高齢者が自立して生活できる拠点とします。
- ③ 空き古民家を活用して海と山の幸を活用した高級レストランに。
- ④ 間垣の景観・日本海の景観・海をモチーフにした、撮影ツアーなどができる宿泊と飲食スペースづくり。
- ⑤ 海を楽しむシュノーケリングツアーができる宿泊と飲食スペースづくり。
- ⑥ 自然の景観を楽しむキャンプ・パークユースペースづくり。
- ⑦ 空き家を改修して賃貸とし移住を促します。
- ⑧ 地域復興のフェスを催し、人を呼び込みます。
- ⑨ 情報発信やイベント開催で話題性を高め、人が訪れる+の連鎖をつくりたい。

能登復興プロジェクト

令和6年1月1日の大地震から度重なる災害と地形の問題があり、復興が遅れています。そのなかでは市街地が優先され、周辺地域、特に孤立している集落は後手になっています。

経済性を優先するコンパクトシティの概念から、集落再生に消極的な考え方もあります。

この発想をベースに私たちが立ち上げた「能登オーベルジュ会議」では、能登における未来型持続可能な集落の再生を目指して、災害により孤立した集落の「公共インフラを問わず自立した生活が可能な故郷へ再生」に向けて、次のような能登復興プロジェクト企画を作成しました。

A バイオマストイレ
B 太陽光発電・蓄電池
C 水の循環
D 緊急時食料薬利確保のドローン基地

●災害時のレジリエンスを解消する
買い物困難→道路復旧後は無人タクシー、ドローンを利用
水・電気↓井戸、湧き水の利用や自家発電・太陽光利用
生活の張り合い・生き甲斐・誰かの役に立つ満足感↓人とのふれあい・まずは人呼び込む

●復興を妨げる問題点
半島特有の地形から、個々の集落へはハブ地区を通らないとアクセスできなくなっています。そのためインフラ整備もままならず、住民は住み慣れた故郷から離れて生活せざるを得なくなっている状態です。

●自立した生活のためのプランニング
災害時に孤立しやすい地域の1つをモデル地区として再生させ、人が集まり次世代にもつながらる地区の魅力発信するコンセプトでプランニングしたいと考えました。

モデル地区が円滑に動けば、他の地区にもそれぞれの地区の特性を活かしつつ、展開することで能登全域の復興につなげたいと思います。

●輪島市上大沢町
間垣集落をモデル地区に
間垣集落は、重要な文化的景観地区であること

●災害時のレジリエンスを解消する
買い物困難→道路復旧後は無人タクシー、ドローンを利用
水・電気↓井戸、湧き水の利用や自家発電・太陽光利用
生活の張り合い・生き甲斐・誰かの役に立つ満足感↓人とのふれあい・まずは人呼び込む

●復興を妨げる問題点
半島特有の地形から、個々の集落へはハブ地区を通らないとアクセスできなくなっています。そのためインフラ整備もままならず、住民は住み慣れた故郷から離れて生活せざるを得なくなっている状態です。

●自立した生活のためのプランニング
災害時に孤立しやすい地域の1つをモデル地区として再生させ、人が集まり次世代にもつながらる地区の魅力発信するコンセプトでプランニングしたいと考えました。

モデル地区が円滑に動けば、他の地区にもそれぞれの地区の特性を活かしつつ、展開することで能登全域の復興につなげたいと思います。

●輪島市上大沢町
間垣集落をモデル地区に
間垣集落は、重要な文化的景観地区であること



調査で訪れた輪島市の様子

能登半島被災建物の調査から
公共インフラを使わず
自立した生活が可能な故郷の再生へ

杉山真 杉山真設計事務所

私は金沢で近代数寄屋など和風建築を主とした設計業務を行っています。能登半島地震における被災調査への関わりは、昨年夏頃に輪島市から依頼された罹災証明書用の二次調査から始まりました。輪島市では全壊の他、半壊などにも支援金が支給されるので、一次調査で一部損壊、準半壊とされた住民からもう一度見てもらいたいという要望に対して二次調査が行われます。私が相談を受けた中で、特に古民家にお住まいの方々は、住み続けたいという気持は満々でした。私が調査したのは在来工法といわゆる古民家が半々くらい。住民からは家が斜めになっているが使えますかという声がよくありましたが、石場建ての古民家については「傾いたものを直して使えますよ」と答えました。全壊とされた家でも、「直せる」と答えた場合もありました。

●建築家としてすべきこと
調査のために被災地に足を運ぶ中で親しくなった設計士と、「被災した方のことを考えると、自分たちにできることは調査だけでなく、建築家としてこれからすべきことを考える方が重要でないか」という考えに至りました。そこで次のようなアイデアが生まれました。アイデアの骨子として重要なのが、能登の集落に多く残る石場建て工法で建て

られた民家の存在です。地震で斜めになった柱、石の上からずれてしまっている上部構造、それらは比較的安価に元の姿に戻せるという特徴があります。仮設住宅や、恒久的な町営住宅を新たに建設するのでなく、現在ある建物を修繕し再利用していくことが可能です。こうした集落の住民の多くは80歳以上で、子どもたちは都会に出ており、代々住んできた家をどうしようかと思っています。震災に限らず過疎、高齢化地域では共通ですが、震災を機に考えなければならぬ課題です。そこで私たちは住民が住み続け、資産を活用しながら次の世代に繋げることを考えることが必要と考えました。

この発想をベースに私たちが立ち上げた「能登オーベルジュ会議」では、能登における未来型持続可能な集落の再生を目指して、災害により孤立した集落の「公共インフラを問わず自立した生活が可能な故郷へ再生」に向けて、次のような能登復興プロジェクト企画を作成しました。

●復興を妨げる問題点
半島特有の地形から、個々の集落へはハブ地区を通らないとアクセスできなくなっています。そのためインフラ整備もままならず、住民は住み慣れた故郷から離れて生活せざるを得なくなっている状態です。

●自立した生活のためのプランニング
災害時に孤立しやすい地域の1つをモデル地区として再生させ、人が集まり次世代にもつながらる地区の魅力発信するコンセプトでプランニングしたいと考えました。

モデル地区が円滑に動けば、他の地区にもそれぞれの地区の特性を活かしつつ、展開することで能登全域の復興につなげたいと思います。

●輪島市上大沢町
間垣集落をモデル地区に
間垣集落は、重要な文化的景観地区であること

